

33

Mesima®の効能並び安全性に対する研究

○ 兪載国, 朴柄或, 洪南斗 (慈光研究所)

兪益東 (生命工学研究所)

松永政司, 宇住晃治 (核酸普及協議会)

【目的】近年、慢性病治療において主治療の補完目的に免疫増強剤や調節剤の併用投与が増加している。最近 Mesima®が日本の臨床医によって補完・代替医療を目的に患者に投与され始めたが、Mesima®の類似品も急増し治療に混乱をきたしつつある。演者達は Mesima®と類似品の起源、一部効能を比較し又、Mesima®の抗癌剤による副作用の軽減、活性、安全性等に対する *invitro* 実験を実施した。

【方法】Mesima®と類似品の起源は遺伝子解析 (PCR法) によって行い各種動物実験を実施し一部活性を比較し又、Mesima®の効能並び安全性を検定した。

【結果】PCRの結果 Mesima 菌株は *Phellinus Linteus* (ATCC26710)と近い起源をもっているが類似品等は、*P. Linteus*でない事を確認した。Mesima®投与で免疫細胞 (NK細胞, Bリンパ球, Tリンパ球, マクロファージ) 活性が3~5倍増加し、LD50は 1500mg/kg以上の安全性を示した。腹水癌誘発後 Mesima®を投与すると生存期間が延長し又、化学療法剤MMC単独投与よりMMCと Mesima®の併用投与が生存期間を延長した。この結果MMCと Mesima®の薬物の相乗効果が認められた。又、癌細胞株 P-388 と L-1210 にMMC単独処理時の IC50に比べ Mesima®と併用投与した時の IC50は 1/2~1/3 減少した。

【結論】Mesima®は *P. Linteus* の起源と一致し免疫増強活性と化学療法剤との相乗効果が見られた。又、細胞毒性がなく安全性にすぐれていた。今後、化学療法剤の毒性を軽減すること、補完代替医療の中核として利用されることが期待される。